

夜の森ピクニックを中心に据えた住民主体のまちづくり事業

富岡町心の復興事業計画書

富岡町小規模多機能自治研究会

取組の目的・概要・効果・特徴

取組全体の目的・概要: 本事業は、震災・避難の長期化で希薄化したつながりを回復し、町民が地域の中で安心感や役割を取り戻せる関係づくりを目的とする。交流機会が減少している子育て世代や高齢者、地域に加わる移住者など、孤立しやすい層に参加しやすい小規模交流を提供し、顔の見える関係の再生や日常の安心につなげる。そのために夜の森地区を拠点とした多世代交流イベント「夜の森ピクニック」と、その発信を柱として取り組む。震災後の人と人との繋がりを新たな形で編み直し、一人ひとりの生きがいづくりと心の復興に寄与することを目指す。

取組の効果・特徴: 本事業は、単なるイベント開催に留まらず、参加者が「役割」を持って関われる仕組みを特徴としています。「自分の知識や経験が誰かの役に立つ」「自分の作った場で誰かが喜ぶ」という体験を通じて、震災や避難生活で喪失しがちだった自己有用感を再構築します。住民の声を拾い、暮らしに実装する住民主体の活動を生み出すノウハウを蓄積することで、将来的に補助金に依存しすぎない自立的な地域運営組織へと発展することを目指します。

取組内容

【取組①「事業名:夜の森ピクニック」、実施主体:夜の森ピクニック実行委員会(事務局:富岡町小規模多機能自治研究会)】

第1回 4月18日@夜の森公園

「夜の森まちづくり塾」と連携し「花みこし」の復活に向けた取組を実施します。

第2回 5月19日@つつみ公園

大人も子どもも公園を「遊び尽くす」体験を通じ、公園を日常的な交流拠点として再定義します。

第3回 9月27日@夜の森公園

大人も子どもも公園を「遊び尽くす」体験を通じ、公園を日常的な交流拠点として再定義します。

第4回 11月3日@夜の森公園

防災公園である夜の森公園の設備（かまどベンチ、テントになる東屋等）を実際に使用。住民が「地域の担い手」として楽しく防災に取り組む中で、有事の際に助け合える「顔の見える関係性」を深めます。



【取組②「事業名:地域FM」、実施主体:富岡町小規模多機能自治研究会】

全8回配信

夜の森ピクニックと連動し、地域リサーチおよび地域FM等での発信を実施します。住民へのヒアリングやまちあるきを通じて、震災前後の記憶や地域への思い、地域資源や課題を掘り起こします。あわせて、住民が語り手・聞き手・記録者として関わる機会を設け、主体的な参画を促します。収集した内容は、地域FM等で発信するとともに、ピクニックの企画や当日のプログラムにも反映し、地域内での共有と対話の機会を創出します。これにより、地域の記憶の継承と新旧住民・世代間の相互理解を促進します。

次年度以降の展開

- ① **地域資源（公園等）を軸とした交流の定着:** 既存施設を日常的に住民が集い役割を持つ「生きた交流拠点」へと進化させ、有事の際にも機能する「共助の基盤」を地域資源の中に構築します。
- ② **地縁に根ざした「顔の見える」見守りネットワーク:** 外部からのアプローチでは届きにくい住民の思いを丁寧に掬い上げ、孤立しがちな高齢者や転入者をゆるやかに包摂する見守り体制を育みます。
- ③ **自律的な地域運営と関係人口の拡大:** 住民の声を拾い、暮らしに実装するノウハウを蓄積することで、将来的に補助金に依存しすぎない「自立した地域運営組織」への発展を目指します。また、魅力を発信を通じ、長期的な定住・交流人口の拡大という好循環を生み出します。